



平成26年第4回 【12月】定例会 行政事務一般質問 要旨

平成26年第4回定例会（12月議会）で、12月9日、10日に8人の議員が村政について質問を行いました。



森

正仁議員

農村交流館の利用及び農村文明塾の将来の展望は

質問 ①域学連携で大学等、何校と連携しているのか。②交流館宿泊施設一日当たりの宿泊最大人数、最少数人数は。③宿泊する人が有るときには管理人等の人材が必要だろうか、一晩の人件費はいくらか。④東京まで無料送迎しているが、車は何を使用するのか。運転は職員か、一般人か。経費は誰が負担するのか。⑤学生たちのリピート率は、またスキー等観光で訪れた数はどれくらいか。⑥3階の宿泊施設に、今回の行政コンソーシアムのような一般人も泊めるのか、宿泊費はいくらか。⑦今回の行政コンソーシアムは、先着30人の募集人員だったが、何人参加したのか。⑧資料館の展示物等は、観光にも利用できるのか。⑨農村文明塾は、村の経済及び村民の暮らしにどのような効果や成果があるのか。

村長

⑨農村は都市との交流がなければ持続しないことから、都市と農村の共生のための取り組みである。

教育次長

①現在5校と連携。②最大37人、最少7人。③シルバー人材センターからの派遣者で、費用一晩4070円。④村のマイクロバス使用時、運転手は業者、ワンボックスワゴン車使用時、職員が運転。費用は村が負担。⑤リピート3人、スキー観光等は、現在なし。今後に期待したい。⑥素泊まりで学生と同額の15000円。⑦町村職員19人参加。⑧鉄剣の復元複製品などを広くPRしたい。

サフォーク等飼育の現状とこれからの方向性について

質問

①昨年、今年度分サフォークの仕入はあったのか。費用はいくらか。②昨年一年間の管理費はいくらか。そのうち餌代はいくらか。③一年間に生まれた頭数は、事故等で死んでしまった頭数は、現在、何頭いるのか。④食用として利用されたのか。収益はあったのか。⑤これららどのように展開されるのか。⑥村

の経済にどのような効果があるのか。⑦成果、効果等検証したのか。⑧ジャージー牛を含めて、どのくらいの規模まで拡大するのか。⑨優良農地が、現在は耕作する作物、耕作する労力もなく荒廃地が拡大している現状を見ると、奨励作物の導入、畑作農業の後継者育成等の業務が必要ではないか。

産業建設課長

①昨年、雌10頭を購入。費用は115万円。②今年は購入していない。管理費960万円、餌代300万円。③生まれた頭数は、35頭、死産、生育不良13頭、放牧中死亡12頭、現在32頭を飼育。④ラム用肉6頭。収益5万6万円。ジャージー乳90万円。⑤乳はアイス、チーズに、肉はウインナー、生肉、レストランで使用予定。⑥元々、耕作放棄地対策として導入したものの、放棄地は徐々に減っている。⑦放牧地の下段では、有害鳥獣の侵入が減った。⑧平成35年までにジャージー牛35頭、サフォーク165頭まで拡大予定。⑨JAと協力して振興作物の種苗補助、新規就農者、担い手農家による耕作の集積事業を今年度より展開。

議会に対するご意見をお聞かせください。

お電話の場合

☎82-3111(内線150番)

E-mailの場合

gikai@kijimadaira.jp

発行：木島平村議会

編集：議会だより編集委員会



湯本 隆幸議員

村長としての姿勢を問う

質問 26年3月議会最終日の翌日、農の拠点施設の予算が否決されたその鬱憤を、「親戚中で一生恨んでやる。」と言われたあなたの言動は、人権を大切にしている行為とは思えない。議会や議員、村民に対して、圧力をかけたり、馬鹿にするような言動が幾度もあったが、議会制民主主義をどう理解しているか。

村長 批判をいただくような言動が出てしまった。誠に申し訳ない。恐怖に慄くと感じられたとしたら、大変申し訳ない。私の不徳の至すところで、心からお詫びを申しあげたい。



樋口 勝豊議員

米価の暴落に対策を

質問 今年のJAのコシヒカリ特Aの買入れ価格は1俵、1万7000円。生産コストは、1万6000円であり、「米作って、飯食えねえ。」と農家の悲痛な声が挙がっている。村内の大規模認定農家の中でも、「もう米作を続けられない。」という声が出ている。生産者米価が下がり続

け、米作農家の多くが家族労働費どころか経営費も賄えない状態である。この事態を根本から改善し、基幹作物である米作経営を安定させることは、農業再生の出発点である。生産者米価の大暴落は、米の再生産を危うくし、地域経済にも深刻な打撃を与えている。安倍内閣が、米の需給安定に対する国の責任を放棄し、市場任せにしていることに大きな原因がある。緊急に政府の責任で過剰米を買い上げ、半額に減らした米直接支払いの10アール、1万5000円の復活、全生産者を対象にした価格補てんを行うことを提案する。米どころではJAや自治体が経営に援助(融資など)しているところもある。国や県に救済策と農政の転換を求め考えるはあるか、村としての対策はあるか尋ねる。

村長 木島平米は、日本一の産地になりつつあり、品質を向上させ、有利販売につなげる。



出荷を前にした米 (カントリーエレベーター)



大角六七人議員

協働の村づくりに

質問 「農を基軸とした村づくり」、「ふるさと納税」、「協働の村づくり」の進捗状況について尋ねる。

村長 協働の村づくりについては、村の基幹産業である農業を度外視しての村づくりは考えられず、一次産業に元気がなければ、二次、三次産業も厳しいものになってしまう。木島平米は農家の皆さんの努力により、日本一美味しい米という評価を受け、大きく飛躍を遂げた。また、遊休農地の解消、農業後継者、新規就農者の育成に取り組み、成果に結びついている。第3セクターについては、2つの3セクを統合して、木島平観光(株)として、黒字化を達成した。保育園・小学校の統合は、村民の皆さんのご理解をいただき、円滑にできた。木島平型教育の推進については、教職員、地域の皆さんの熱心な取り組みにより、大きく進展がみられた。健康セミナー、村ぐるみ防災訓練は、多くの皆さんの参加を得て、取り組みを鋭意進めている。交流の活性化については、スポーツ観光を交流型に切り替え、少年サッカー、アーチェリー競技に特化し、両競技の

聖地として全国に知られるようになった。調布市との交流強化、交流都市とのネットワーク拡大、各大学との連携推進、空校舎を活用した特別養護老人ホームの開所により、入居待機者の解消と雇用の創設を行なった。

参与 ふるさと納税については、返礼の品物を送るようになるなど、取り組みを見直した結果、9月から11月で107件、2500万円が集まった。村特産物の詰め合わせは、大変好評をいただいております。村の農産物のPRにも効果的である。今後、返礼の品物に一層の工夫をしていく。

全国体力テストについて

質問 小学5年生、中学2年生を対象に、毎年実施されている体力テストについて、村内小中学生の結果は、全国レベルに比べ、どのような状況か。

教育長 いずれも昨年度の全国平均を上回っていて、体力の状況は良好と受け止めている。

再質問 朝練について、賛否両論あるが、教育長の見解は。

教育長 県の部活動に対する指針では、朝の部活動は、原則として行わないとしており、尊重しなければならぬと思う。木島平中学校では、原則、朝練はないとしているが、冬期間は、県の例外規定により認めている。

きた。木島平型教育の推進については、教職員、地域の皆さんの熱心な取り組みにより、大きく進展がみられた。健康セミナー、村ぐるみ防災訓練は、多くの皆さんの参加を得て、取り組みを鋭意進めている。交流の活性化については、スポーツ観光を交流型に切り替え、少年サッカー、アーチェリー競技に特化し、両競技の



萩原 由一議員

農の拠点について

質問 【レストラン部門について】

- ①どんなメニューを考えているか。
- ②レストランの責任者は誰で、調理する人材と他のスタッフは何人を予定しているか。
- ③レストランのランニングコストの試算はどのくらいか。
- ④レストランの年間仕入額はいくらか。
- ⑤村内産材料は、額にして、どのくらい占めるか。
- ⑥レストランの年間売上は総額いくら試算しているか。稼働日数で除すと1日いくらになるか。
- ⑦総収益で従業員給料はいくら支払える予定か。

【加工部門について】①加工品は何品目作るのか。材料に目処は付いているのか。村内産材料は、額にしてどのくらいか。品目毎に尋ねる。②加工部門の責任者は誰で、スタッフは何人か。加工の経験は有るのか。③年間の取扱量はどのくらいか。④材料の仕入額はどのくらいか。品目ごとに尋ねる。⑤売上はいくらか。品目ごとに尋ねる。⑥総収益は、年間いくらか。⑦販売計画の説明を求めらる。

産業建設課長

【レストラン部門について】①木島平産米を使った米を中心にパスタ、かまどだきご飯、お

にぎり、地元野菜を中心した創作料理などを考えている。②農村木島平(株)のレストランの責任者を主体に、平日2人。また、高校生レストランも検討しているので土・日5人。集客状況で変わる。③1年目で120万円。集客状況で変わる。④売上の42パーセント、金額にして361万円。米は100パーセント木島平産。⑤基本的に村内産を使用する。米は100パーセント木島平産だが村内で調達できない物もあるので、理解いただきたい。⑥稼働日を300日、885万円。1日3万8200円。⑦一般社員で月13万円から20万円。

【加工部門について】①製粉機を導入し、米粉パン、野菜の粉末入りパン、野菜山菜を使用したドライフーズ。ケチャップ、ジャムは農林高校と検討。おやき、ジャージー牛のアイスクリーム、試作だが、みゆきポークを使った生ハム等。材料は、村内にある物は100パーセント使用。無い物は交流都市などから。②統括責任者は、会社役員が兼務。スタッフは、カフェ、レストラン延べで、2〜3人。今後、加工も含めてオールマイティーに出来るよう、研修等も行う。③米粉パン3400個で350万円、30パーセント。ケチャップ3000瓶、150万円、60パーセント。



小林 貴彦議員

農の拠点施設の進捗状況について

質問

27年3月竣工に向けて、施設の工事が着々と進められている。

農村木島平(株)の社員による営業活動、研修会、商品の開発などに意欲的に取り組み、当初、心配されていた、「大変だ。」と批判されていた危機や課題を解決するべく、村と一丸となり、村民が安心して利用できる施設へと取組んでいることが伝わってくる。持続可能な6次産業に向けて、村民の皆さんからは、協力しなければという期待とともに、前向きな方向へと変わっている。

農産加工部門は、地元の農産物を中心とした品揃えをしていく。冬期間は、地元で出来る雪中野菜の開発に取組み、JAや調布市、袋井市、板橋区等の姉妹都市、交流都市との連携により、品揃えに努めていく。また、日用品など、取り扱える便利店の役割を果たせるよう、検討していく。米の販売については、昨年同期を遥かに上回り、好評をいただき、順調に推移している。新規販路の開拓も順調に進んでいる。

施設の竣工、オープンが迫っている中で、村民の皆さんへ、各部門の計画内容などの情報を伝えてはどうかと考えるが、村長の見解を尋ねる。各種団体の協力を得て、進めていく。

加工部門では、米粉製品、食肉製品、乳製品、瓶詰加工等、JAと連携による、みゆきポークの生ハム加工も、地元産を使用した、イモナマ

村長

レストラン部門では、既に弁当の注文、販売を、村内企業、役場等へ、1日50食ぐらいを扱い、大変、好評をいただいている。お洒落と雰囲気のパスタ料理として、ワンピース

農の拠点施設は、地域経済の活性化のための切り札とも言える施設で

フェとして、高校生レストランなど、親しい者どおしが集まり、家族で楽



山崎 純男議員

昨今の自然災害多発で本村の第1次避難所は

質問 昨今の自然災害多発で、本村の1次避難所は、ホテルも含め公民館等が28カ所である。その内17カ所が1次避難所として適さない所があり、また、地滑り等では6カ所あり、合計23カ所ある。耐震補強工事、移転新築としても、相当額の事業費が考えられる。行政として出来ることは何か尋ねる。

村長 昨年、災害対策基本法が改正された。本村では、1次避難所を暫定的に各地区分館としている。特に課題となるのは、耐震性の低い施設が多くある。25、26年度にかけて対象となる各地区分館の耐震診断を行い、27年3月に成果が出た時点で各地区に相談を申し上げ、村としての支援策を決定して行きたい。耐震改修を行う場合には、国の補助を得ながら、平成27年度から計画し、28年から事業に取りかかりたい。

子育て支援の充実について

質問 少子化の進行が続く、大きな社会問題になっている。国でも、

子ども子育て関連法に基づき、新制度が25年4月、内閣府に設置され、具体的な検討が進められた。26年度は、市町村での準備を整え、本年度から本格的にスタートする運びである。5000人の村づくりの活力を維持するうえで、最も大切なことと考えるが、村長の決意を尋ねる。

村長 子育てと教育の村づくりを施策の3本の柱として進めてきた。子育て支援の充実、人口を増やすための過疎脱却の計画である。その間に、保育所の兄弟同時入所以外でも、第3子の年長までの3年間無料子育て支援室開設、小学生、中学生医療費の無料化等を進め、子育て教育環境を充実していかなければならない。

新幹線利用の補助について

質問 新幹線利用の補助について尋ねる。

村長 飯山駅から長野駅まで10分と行動範囲が広がり、高崎・金沢までは通勤圏と考えられる。定期券を含め、料金がまだ設定されず、村としては補助金を検討した経過がある。今のところ、近隣自治体で実施しているところは無い。状況も踏まえ、定住に繋がれば、村の財政を加味しながら検討したい。



江田 宏子議員

内山手すき和紙体験の家への支援強化を

質問 ①内山和紙に関する昔の話を記録に残すため、高齢者から聞き取りをしているが、管理者だけでは手が回らない。このようなことこそ協力隊や農村文明塾の活用を。②施設賃貸料を差引くと、村補助は年間38万円。持続可能という認識か。長期的視点での伝統文化継承、後継者の育成への考えは。

産業建設課長 ①人的な部分を含め、検討したい。②体験料や販売収入で努力してもらっている。村は、老朽化する施設の維持管理を中心に支援、観光面では広域連携でPR、金銭面では管理者と相談しながら対応。伝統文化継承や後継者育成は、関係者と相談し、支援。

再質問

村内文化施設で、和紙の家だけが賃借料を納め、運営補助金が年々減額(当初60万円が44万円に。郷の家は当初から240万円。展示館は80万円が180万円に増額)なぜか。

質問 ①完全民営化の方針の判断と取締役会・株主総会に諮った時期

は。出資者の変動は。②追加出資の状況、村の株譲渡不可を見極める時期と対応は。③次期社長決定と新体制の開始の時期は。④アドバイザー(2年で490万円)、早大生の提案チーム(67万円)、その成果は。⑤12月に決定した販売戦略・商品開発のディレクター(2人で2150万円)の関わり方は。

村長 ①議決間際(6月12日)に、急ぎよ、苦渋の決断。取締役会6月30日、株主総会8月7日に経過説明。3人が取締役退任。②11月末時点で追加出資は4件50万円。村以外の出資金総額2670万円。追加出資切りの12月末以降に判断。農村木島平(株)が株を買い取るか資本金の減額で対応。③村の株が無くなる段階で村長は社長を退任。株主総会開催等の期限を目処に対応。

産業建設課長

④アドバイザーは、ほぼ毎週定例会議に出席し、事業の内容・進め方にアドバイス。早大生からは6項目の提案(学生向けコンテスト・オーダーメイド商品の提供・優待特典など)⑤*販売戦略に関わるロゴマーク、ポスター・パンフ、パッケージデザイン・メニュー開発など、村の意向に沿った12項目

*販売戦略:セールス・イベント・メディア等活用で、販売出口確保・効果的なイベントの実施、チラシ作成など。